

# 第1章 計画の位置づけ

## (1) 都市計画マスタープランとは

### ①目的と役割

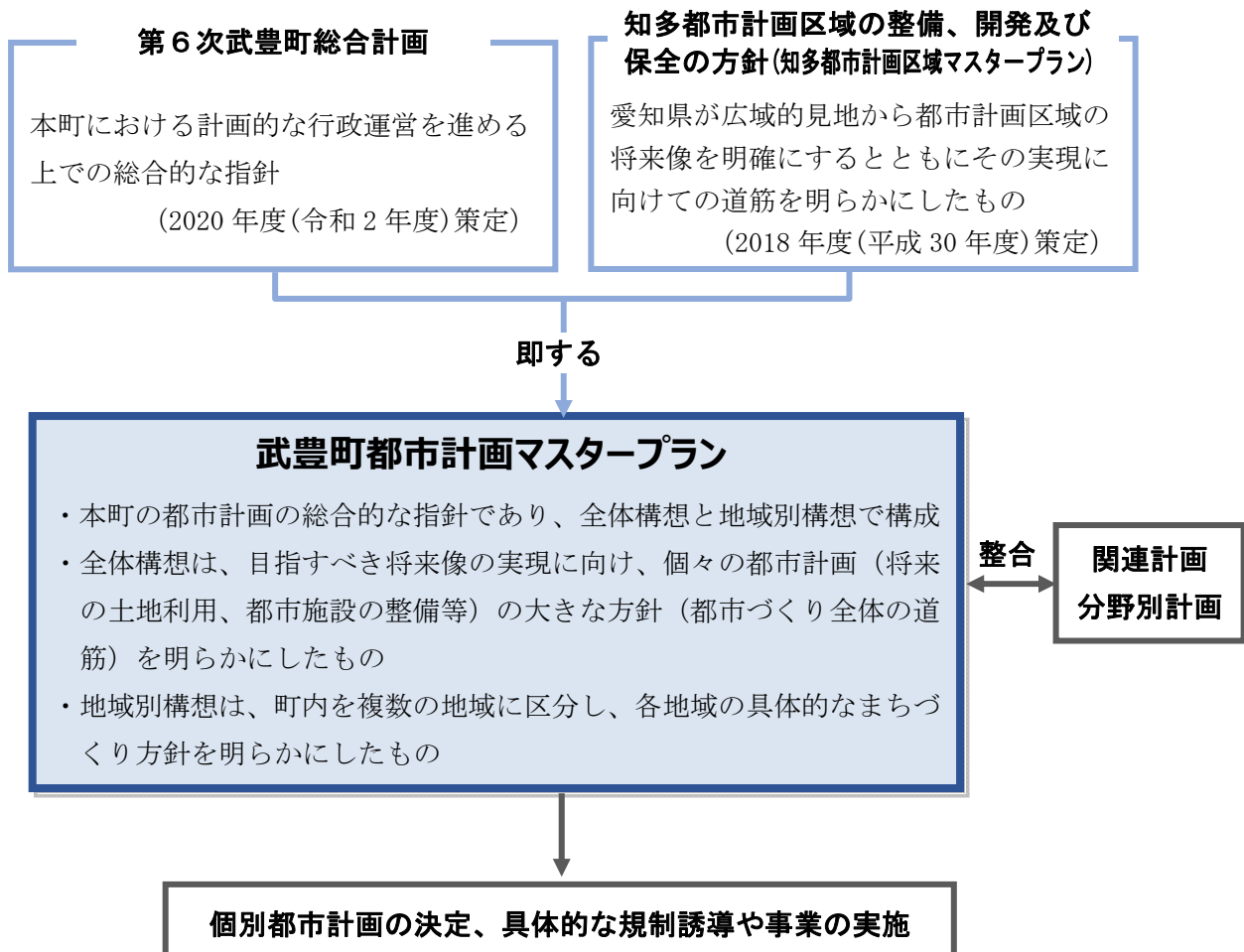
市町村マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定される「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことで、住民に最も近い立場にある市町村が、その創意工夫のもとに住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき「まち」の姿を定めるものです。

武豊町都市計画マスタープランは、本町の都市構造の将来ビジョンやその実現に向けた土地利用をはじめとする都市づくりの方針を明らかにし、本町の都市計画に関する総合的な指針としての役割を果たします。

### ②計画の位置づけ

武豊町都市計画マスタープランは、上位計画である「第6次武豊町総合計画」及び「知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即しつつ、関連する計画と連携・整合を図る計画です。

図表 都市計画マスタープランの位置づけ



## (2) 策定の背景

本町都市計画マスタープランは、2005年(平成17年)3月に策定された後、「たけとよ ゆめたろうプラン(第5次武豊町総合計画)」の策定などを受け、2016年(平成28年)3月に改訂されました。

その後、愛知県においては、2018年度(平成30年度)に知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(知多都市計画区域マスタープラン)の改定を行っています。

さらに、2018年度(平成30年度)からは、本町の最上位計画である第6次武豊町総合計画の策定作業を進め、2020年度(令和2年度)に策定しています。

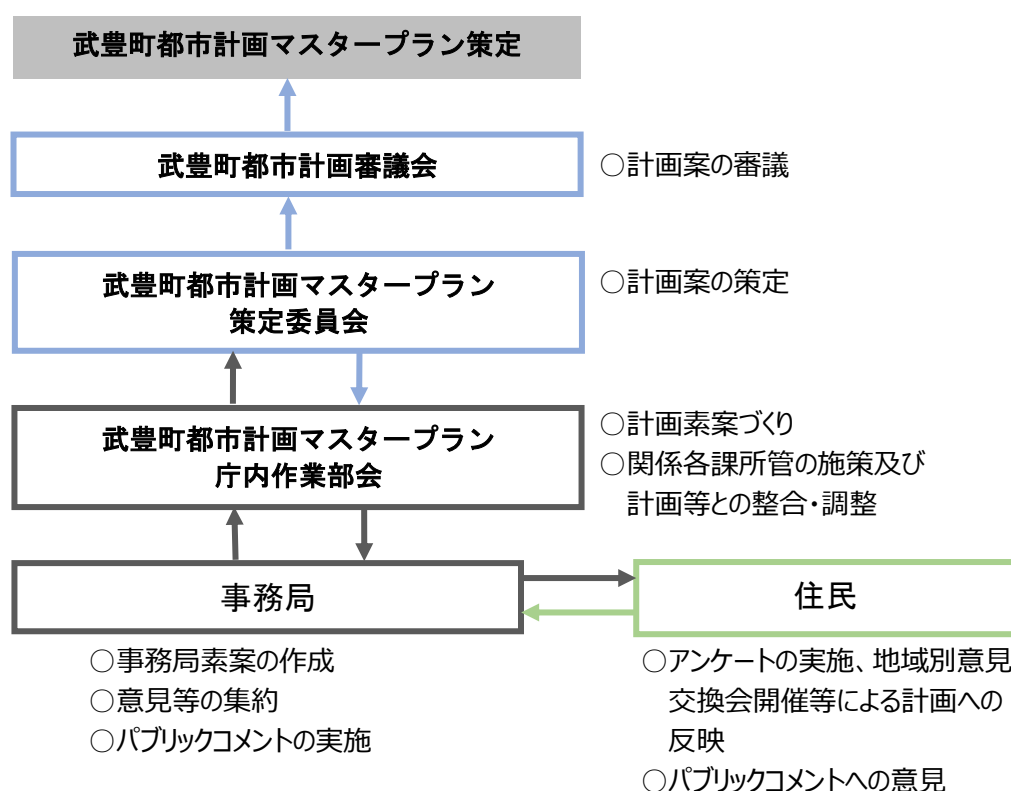
こうした上位計画の改定を受けつつ、前計画策定以降の社会情勢の変化やこれまでの施策等の検討及び実施状況を踏まえ、都市計画マスタープランの策定を行うこととしました。

## (3) 策定体制

本計画は、町の職員により構成する「作業部会」が原案を検討し、都市計画に関する学識経験者、各種団体代表等により構成する「策定委員会」の意見、助言を踏まえて策定しました。

また、パブリックコメントや地域別ワークショップの実施等により、住民意見の反映に努めることとしました。

図表 本計画の策定体制



## (4) 目標年次

本計画の目標年次は、2030年度(令和12年度)とします。

## (5) 上位計画

### ①第6次武豊町総合計画（策定中）

武豊町総合計画は、あらゆる分野の計画の基本となる行政運営の最上位計画で、町が目指すべき将来像ならびにそれを実現していくための施策方針を定めるものです。

#### 【まちの将来像】



#### 【まちづくりの目標】

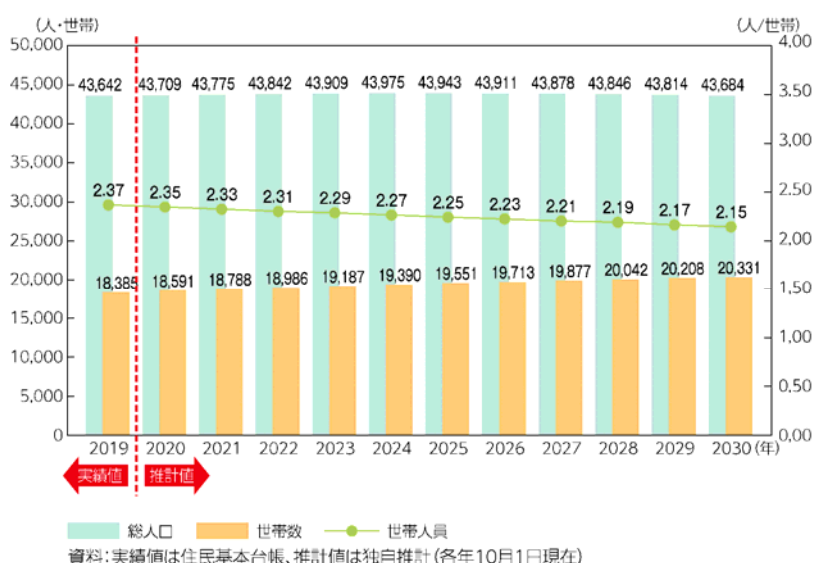
- 定住先として選択されるまち
- 安心して子どもを産み育てることができるまち
- 楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち
- 人と人がつながり、互いに支え合い、健康で安心して暮らせるまち
- 災害に強く、安全・安心に暮らせるまち
- 産業が持続・発展する活力のあるまち
- 環境にやさしいまち
- 多様な主体が連携・協働するまち
- 効率的で効果的な行政経営のまち

#### 【まちの主要指標】

本町の社会動態（転入者数－転出者数）はこれまで増加で推移してきたことから、従来と同程度の水準で社会増を維持していくことで人口減少の緩和を図り、目標とする人口を43,700人とします。

世帯数については、外国人や高齢者の単身世帯が増加することから、今後も世帯人員は減少し、2030年（令和12年）には2.15人/世帯になることが推計されるため、概ね20,300世帯に増加することが見込まれます。

図表 総人口・世帯数・1世帯あたりの人員の推移



## 【土地利用の基本方針】

### ■ 4層構造の土地利用を基本とします

本町の土地利用は、臨海部の工業用地、平野部の市街地、平野部から丘陵部にかけて広がる農地、そして背後に広がる森林・丘陵地が、海岸線と並行するかたちで4層構造を形成しています。今後も、この土地利用構造を基本として、安定した土地利用を図ります。

### ■ 自然環境と調和した土地利用を進めます

海、河川、ため池、森林および農地等を含めた自然環境は、まちに潤いをもたらし、人に癒しを与える大切な存在です。将来世代に継承すべき貴重な財産であることを深く認識し、自然環境と都市環境が調和する土地利用を進めます。

### ■ 既成市街地の再生と有効活用を促します

本町の人口・産業規模に応じた持続可能な市街地の形成を目指し、快適に暮らせる住宅地や町のさらなる活力を創出する産業地の確保を検討します。また、既成市街地の再生と土地の有効活用を図ることに重点を置き、人とまちが活気づく土地利用を進めます。

## 【SDGsと本計画との関係】

SDGsは国際社会全体の開発目標です。総合計画の推進にあたってSDGsが目指す17の目標に沿って、その目標達成に貢献していく必要があります。

SDGsの17の目標と本計画の取組分野・施策方針の関係性を理解して、総合的に計画を推進します。

図表 SDGsの17の目標を表したアイコン



## 【重点施策方針】

### ■ 重点施策方針1 住みよいから、住みたいまちへ

まちの良さ・魅力の発掘、積極的な情報発信、雇用確保、定住のための良好な環境整備等を戦略的に展開し、“住みたい”といわれるまちを目指します。

### ■ 重点施策方針2 子どもの学び・育ちを応援するまちへ

学校はもとより地域の人々や団体が協力して、子どもたちが色々なことに挑戦し、学び、育つ環境づくりを進めるとともに、子育て・子育てをサポートする体制の充実を図ることによって、若者や子育て世代にとって魅力あるまちを目指します。

### ■ 重点施策方針3 みんなが元気に活動・活躍するまちへ

老若男女すべての住民が楽しみながら、社会の一員としての役割を担い、様々な場面でいきいきと活動・活躍できるまちづくりを目指します。

## ②知多都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（愛知県）

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）（2019年（平成31年）3月）は、愛知県が都市計画区域ごとに、一市町村を越えた広域的な見地から、区域区分をはじめとした都市計画の基本的な方針を定めるものであり、本町は「知多都市計画区域」に属しています。

### 【基本理念】

**広域交流拠点や地域特性を活かした特色ある産業が充実し、  
魅力ある暮らしを支える都市づくり**

#### 「元気」

中部国際空港をはじめとする国際的・広域的な交流拠点と他地域を結ぶ広域交通体系を活かし、臨海部の工業や南部の豊富な自然環境に支えられた観光・農業などの特色ある産業が充実する都市づくりを進めます。

#### 「暮らしやすさ」

名古屋市に近接した利便性の高い居住環境と南部の自然海岸や丘陵地などの緑豊かで魅力ある居住環境を兼ね備えた都市づくりを進めます。

### 【都市づくりの目標】

#### 暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換に向けた主な目標

- 主要な鉄道駅周辺などの中心市街地や生活拠点となる地区を拠点として都市機能の集積やまちなか居住を誘導し、活力あるまちなかの形成
- 都市機能が集積した拠点およびその周辺や公共交通沿線の市街地には多様な世代の居住を誘導し、地域のコミュニティが維持された市街地の形成
- 南部では観光振興や地域資源を活かした地域づくりなどによる交流人口の拡大や新たなしごとの創出を図りながら、移住・定住の促進をしていくため、暮らしの安心を支える基盤の整備

#### リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進に向けた主な目標

- 山車行事や農産物・海産物に関連した観光資源、海岸や海などの豊かな自然資源などの地域資源や中部国際空港を活かした地域づくりを進め、様々な対流を促進し、にぎわいの創出
- リニア開業による首都圏との時間短縮効果を全県的に波及させるため、県内都市間、都市内における交通基盤の整備を進め、質の高い交通環境の形成
- 世界との直結性を高めるため、リニア名古屋駅と中部国際空港とのアクセス利便性の向上や広域幹線道路の整備を促進するなど、広域交通体系による名古屋駅との連携強化

#### 力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進に向けた主な目標

- 鉄鋼業などの既存産業の高度化や次世代産業の創出、新たな産業立地の推進を図るため、既存工業地周辺や広域交通の利便性が高い地域、物流の効率化が図られる地域に新たな産業用地の確保
- 経済活動の効率性の向上や生産力の拡大を図るため、広域幹線道路網の充実や空港、港湾、高速道路インターチェンジ、産業集積地などへのアクセス道路の整備を推進

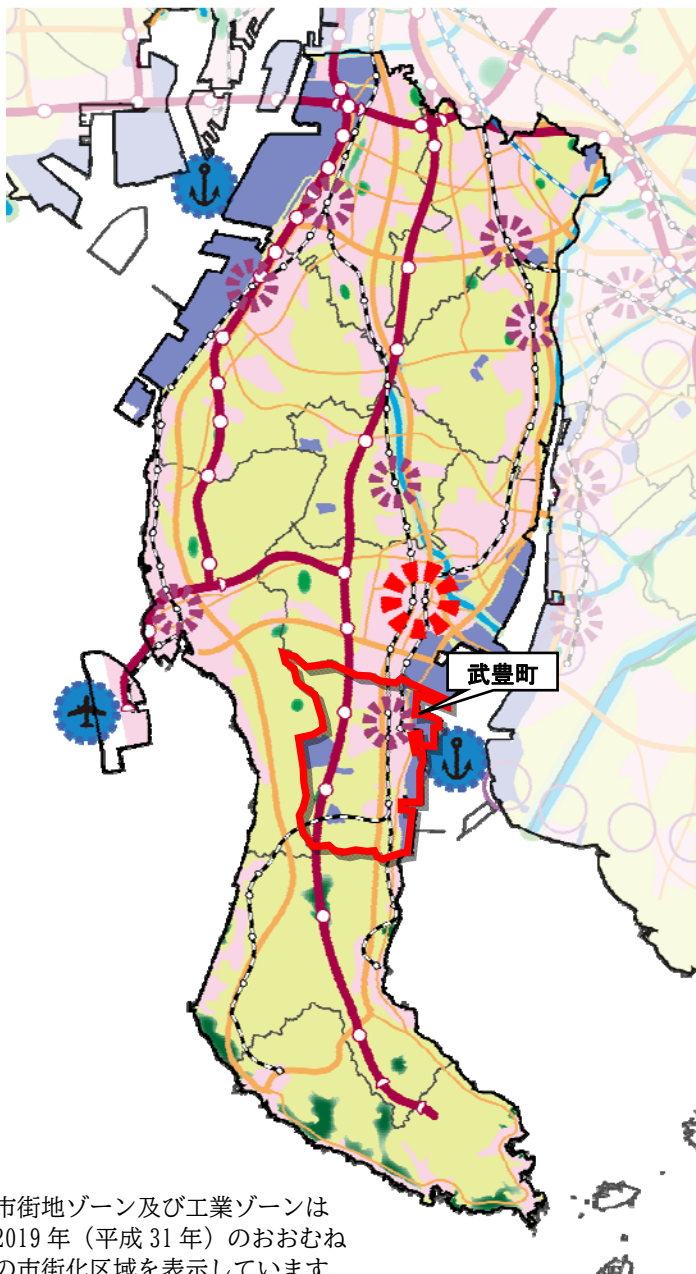
## 大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保に向けた主な目標

- 災害危険性が高い地区では、災害リスクや警戒避難体制の状況、災害を防止・軽減する施設の整備状況などを総合的に勘案しながら、土地利用の適正な規制と誘導を図るとともに、道路、橋梁、河川などの都市基盤施設の整備や耐震化を推進し、市街地の災害の防止または軽減
- 都市計画道路の整備や交通安全対策を推進し、また生活関連施設を結ぶ経路を中心に歩行経路のバリアフリー化や自転車利用空間のネットワーク化を進め、安全安心に移動できる都市空間の形成

## 自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進に向けた主な目標

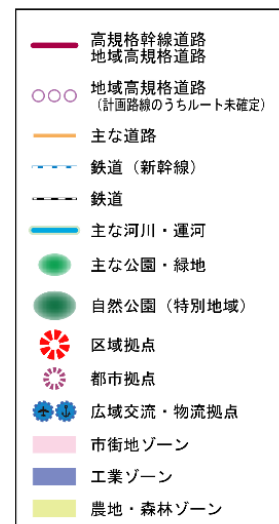
- 北部から中央部の農地、南部の樹林地などの緑地では無秩序な開発を抑制するなど、適正な土地利用の規制・誘導を図り、豊かな自然環境を保全
- 公共交通の利用促進により自動車に過度に頼らない集約型都市構造への転換、建築物の低炭素化、緑地の保全や緑化の推進を実施し、都市部における低炭素化

図表 将来都市構造図



### 【都市の拠点】

- 古くから知多半島の中心として栄え、商業・文化などの都市機能が集積する知多半田駅・半田駅周辺を区域拠点に位置づけ
- 常滑駅、太田川駅、大府駅、朝倉駅、緒川駅、阿久比駅および知多武豊駅・武豊駅周辺を商業・業務、医療・福祉などの都市機能が集積し、暮らしやすいまちなかを形成する都市拠点に位置づけ
- 多くのヒトやモノが集まる中部国際空港、名古屋港周辺を広域交流・物流拠点、衣浦港周辺を物流拠点に位置づけ



※市街地ゾーン及び工業ゾーンは  
2019年(平成31年)のおおむね  
の市街化区域を表示しています。

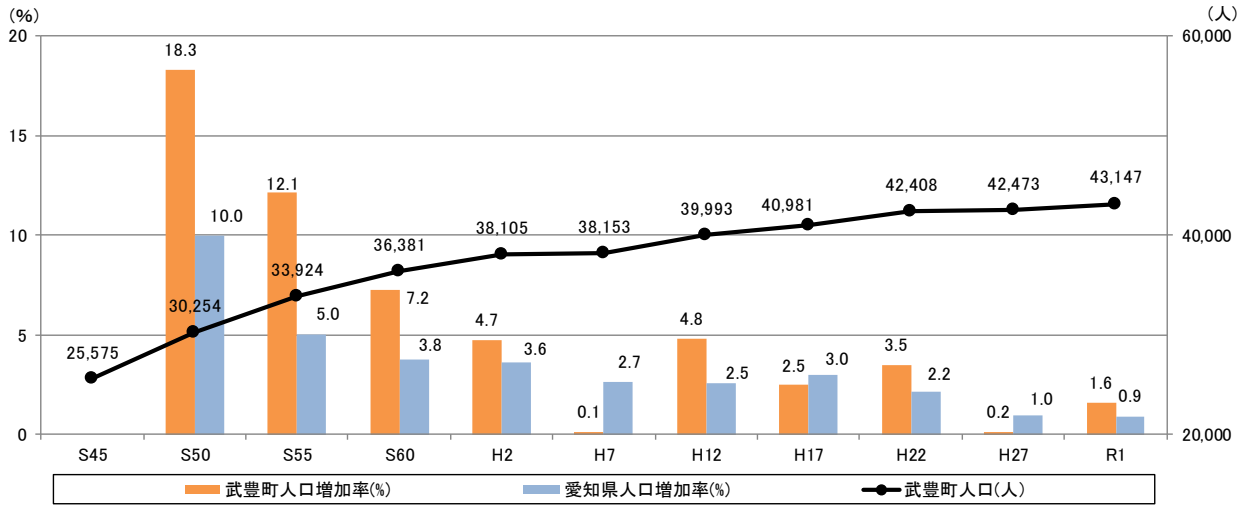
## 第2章 現況特性

本章では、都市づくりに関わる現状から、本町の現況特性を整理します。

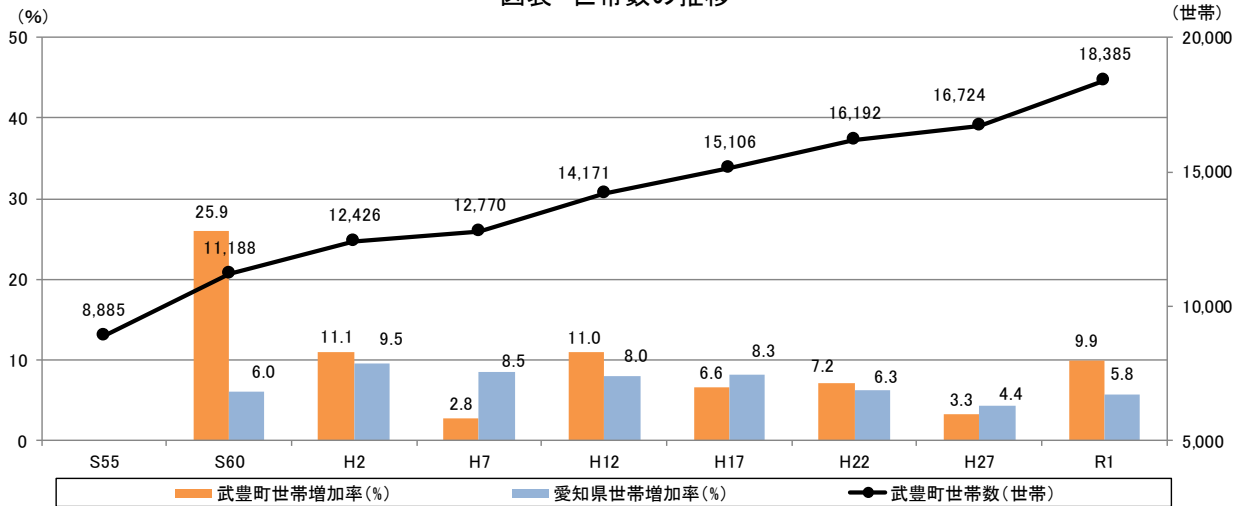
### (1) 人口・世帯数

- 人口は1989年（平成元年）以降の増加が鈍化し、近年は横ばい傾向にあります。
- 世帯数は1980年（昭和55年）以降、増加を続けています。

図表 人口の推移



図表 世帯数の推移

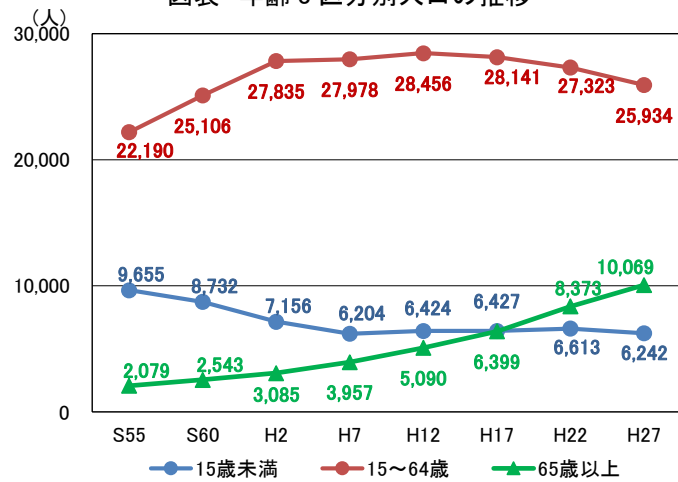


※1970年（S45）～2015年（H27）は国勢調査、2019年（R1）は愛知県人口動向調査結果による推計人口及び推計世帯数（直近の国勢調査結果を基に、その後の住民基本台帳の異動数（出生、死亡、転入、転出等）を加減して推計したもの）

（資料：国勢調査、愛知県人口動向調査）

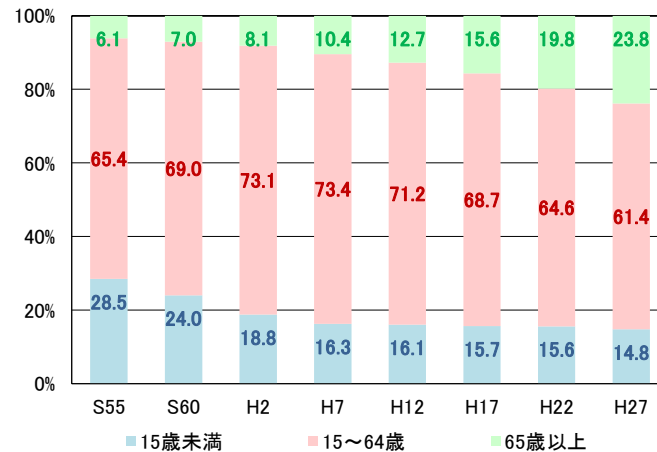
○2015年（平成27年）までの年齢3区分別人口の推移をみると少子高齢化が進んでおり、特に高齢者人口の増加が顕著です。

図表 年齢3区分別人口の推移



(資料:国勢調査)

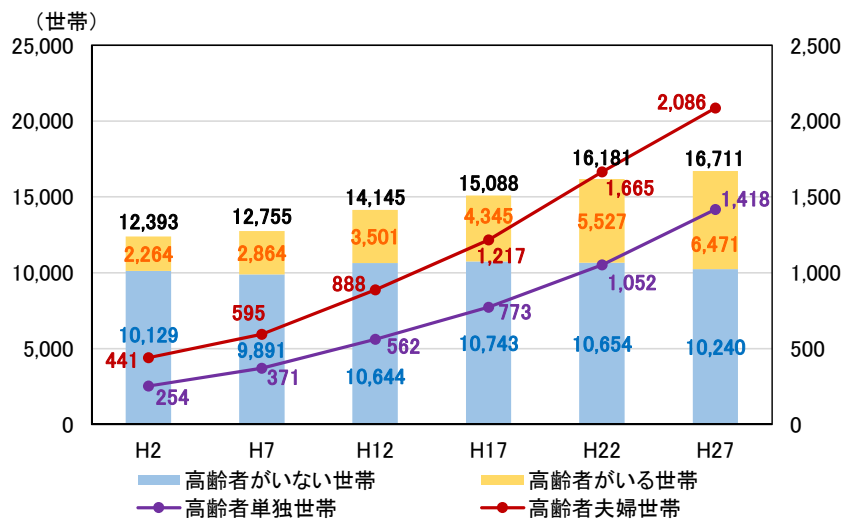
図表 年齢3区分別人口構成比の推移



(資料:国勢調査)

○高齢者のいる世帯が年々増加しており、高齢者単独世帯及び高齢者夫婦世帯は、直近10年間で倍増しています。

図表 高齢者がいる世帯数の推移

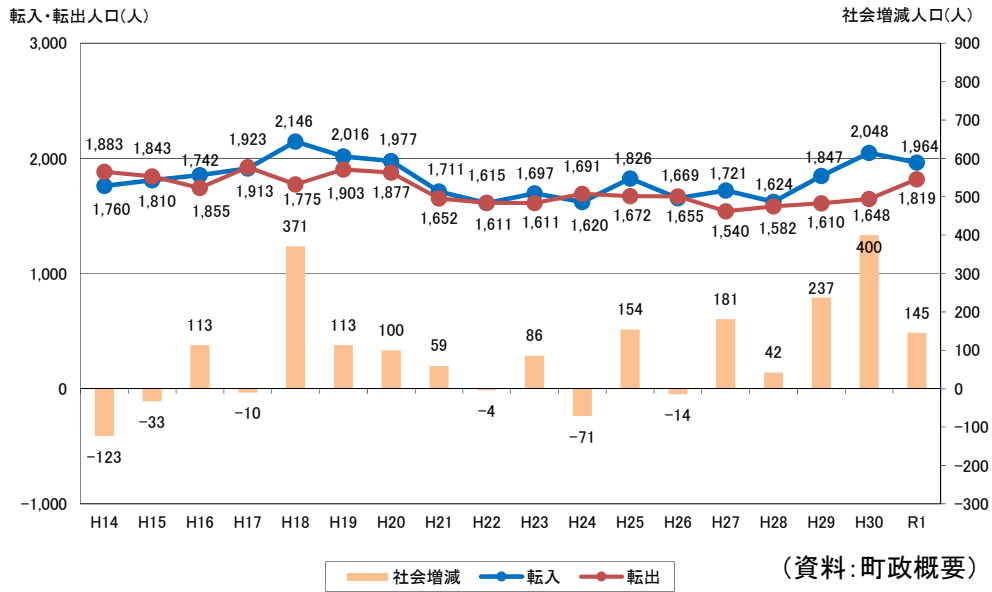


(資料:国勢調査)



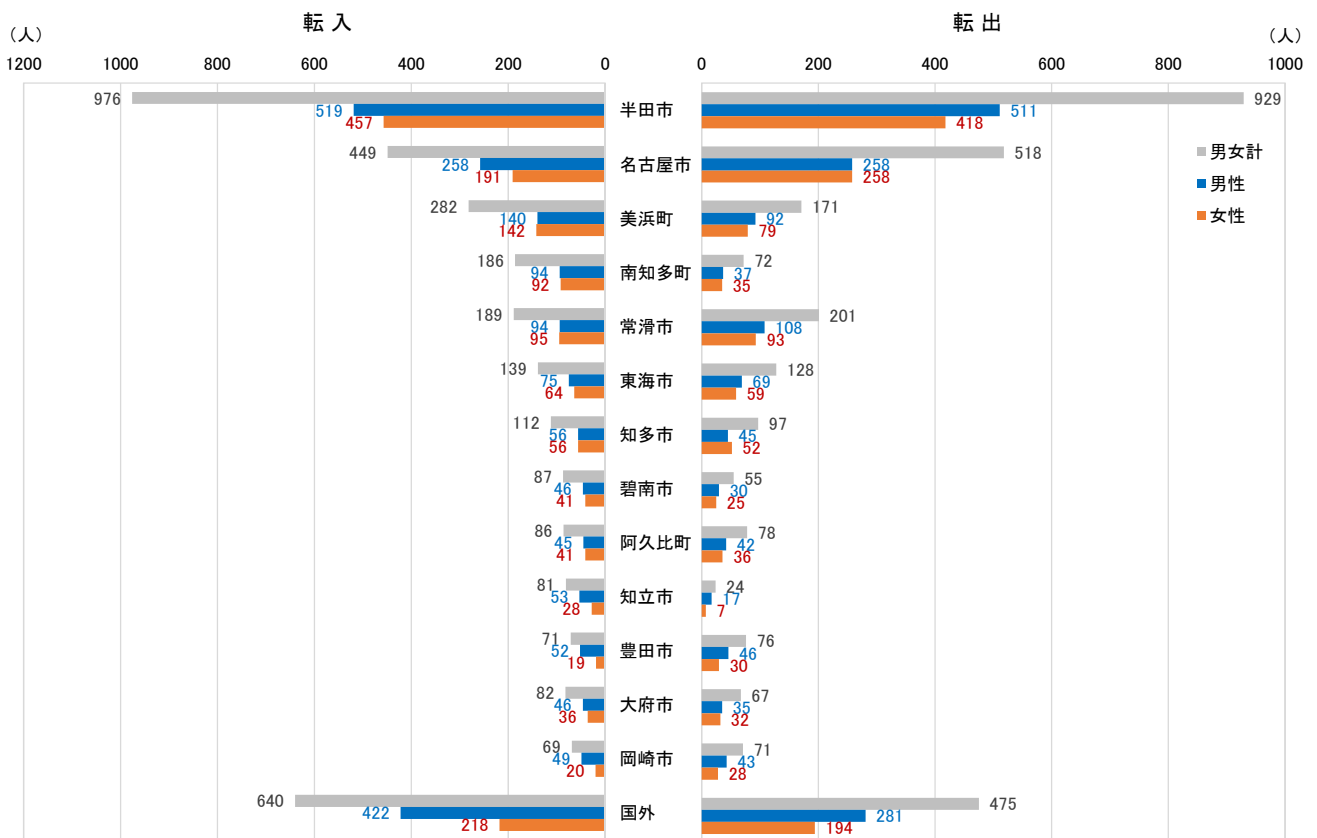
○近年は本町への転入人口が転出人口を上回る転入超過（社会増）の傾向にあります。

図表 転入・転出人口



○近年の本町への転入者の主な転入元は半田市、国外、名古屋市、美浜町、南知多町等が挙げられます。

図表 転入元・転出先による男女別人口動向(H29~R1)



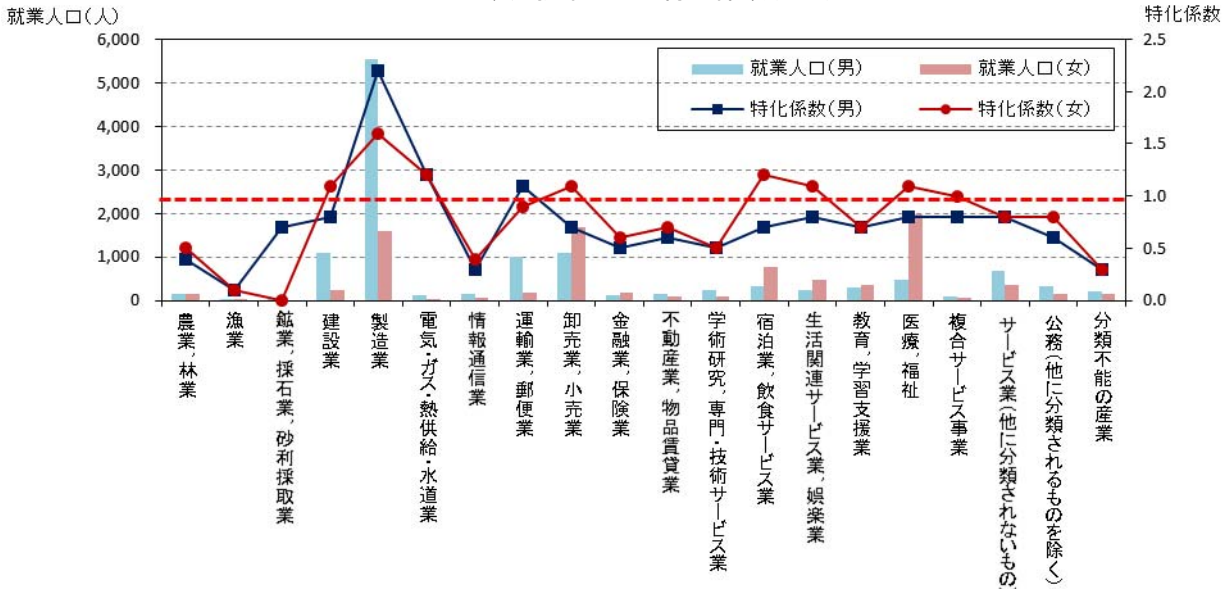
(注)愛知県内市町村の中、転入元及び転出先として上位10位の市町村と国外を抽出。

(資料:愛知県人口動向調査)

## (2) 産業

- 本町の産業構造を全国と比較すると、男女とも製造業従事者の割合が非常に多く、本町は製造業に特化した産業構造を有しています。
- 男性の就業者は製造業が突出して多く、女性は宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉、卸売・小売業等も多くなっています。

図表 就業人口と特化係数(H27)



※ 特化係数:本町における各産業大分類別構成比の全国比で、特化係数が1以上であれば、その産業の就業人口又は従業人口構成比が全国平均より高いことを示します。

X産業の特化係数=本町のX産業の就業(従業)人口比率/全国のX産業の就業(従業)人口比率

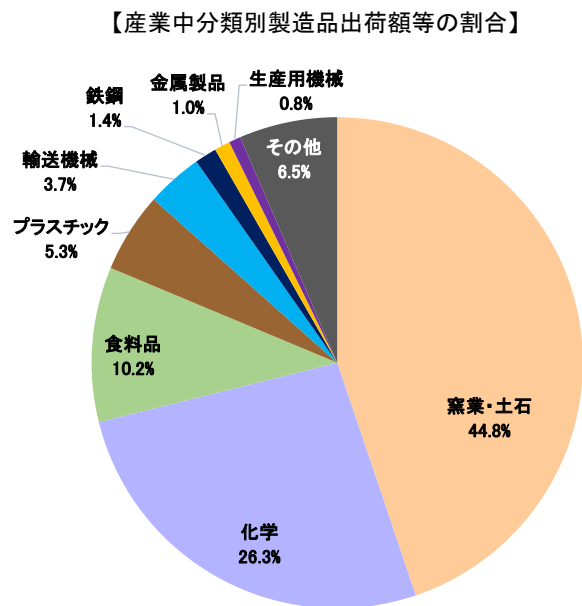
(資料:国勢調査)

- 製造業は、「窯業・土石」「化学」「食料品」といった分野の事業所数、従業者数、製造品出荷額等が高い割合を占めています。

図表 産業中分類別事業所数、従業者数、製造品出荷額等(従業者4人以上の事業所)(H29)

	事業所数 (件)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
総数	85	6,916	27,053,989
食料品	11	781	2,759,152
飲料・飼料	-	-	-
繊維	2	31	X
木材・木製品	2	31	X
家具・装備品	-	-	-
パルプ・紙	-	-	-
印刷	1	12	X
化学	10	1,733	7,113,387
石油・石炭	-	-	-
プラスチック	10	476	1,425,929
ゴム製品	-	-	-
皮革製品	-	-	-
窯業・土石	13	2,841	12,125,062
鉄鋼	5	70	390,946
非鉄金属	1	22	X
金属製品	9	133	278,354
はん用機械	2	11	X
生産用機械	9	101	212,846
業務用機械	1	51	X
電子部品	-	-	-
電気機械	2	48	X
情報通信機械	-	-	-
輸送機械	6	351	1,001,089
その他	1	224	X

※「X」は秘匿



(資料:工業統計調査)

○本町は、歴史ある鉄道や醸造業（味噌・たまり）の「みそ蔵の立ち並ぶ街並み」、文化資源としての地域の祭りなどの貴重な地域資源を有しています。

写真 転車台

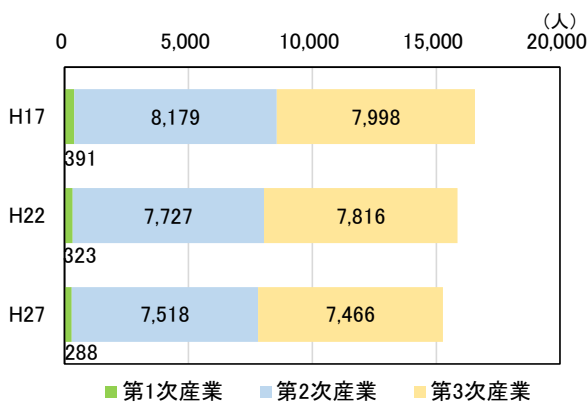


写真 みそ蔵のまちなみ



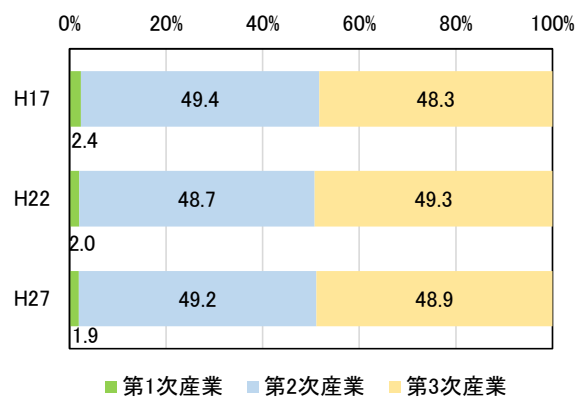
○本町で働く従業者数は、近年、第1次から第3次産業まで共通して減少傾向にあります。一方で人口は増加していることから、町外へ働きに出ていく傾向があると考えられます。  
○産業分類別の従業者数の構成比は、第2次産業と第3次産業がともに約5割を占めています。

図表 産業分類別従業者数の推移



(資料: 国勢調査)

図表 産業分類別従業者数の割合の推移

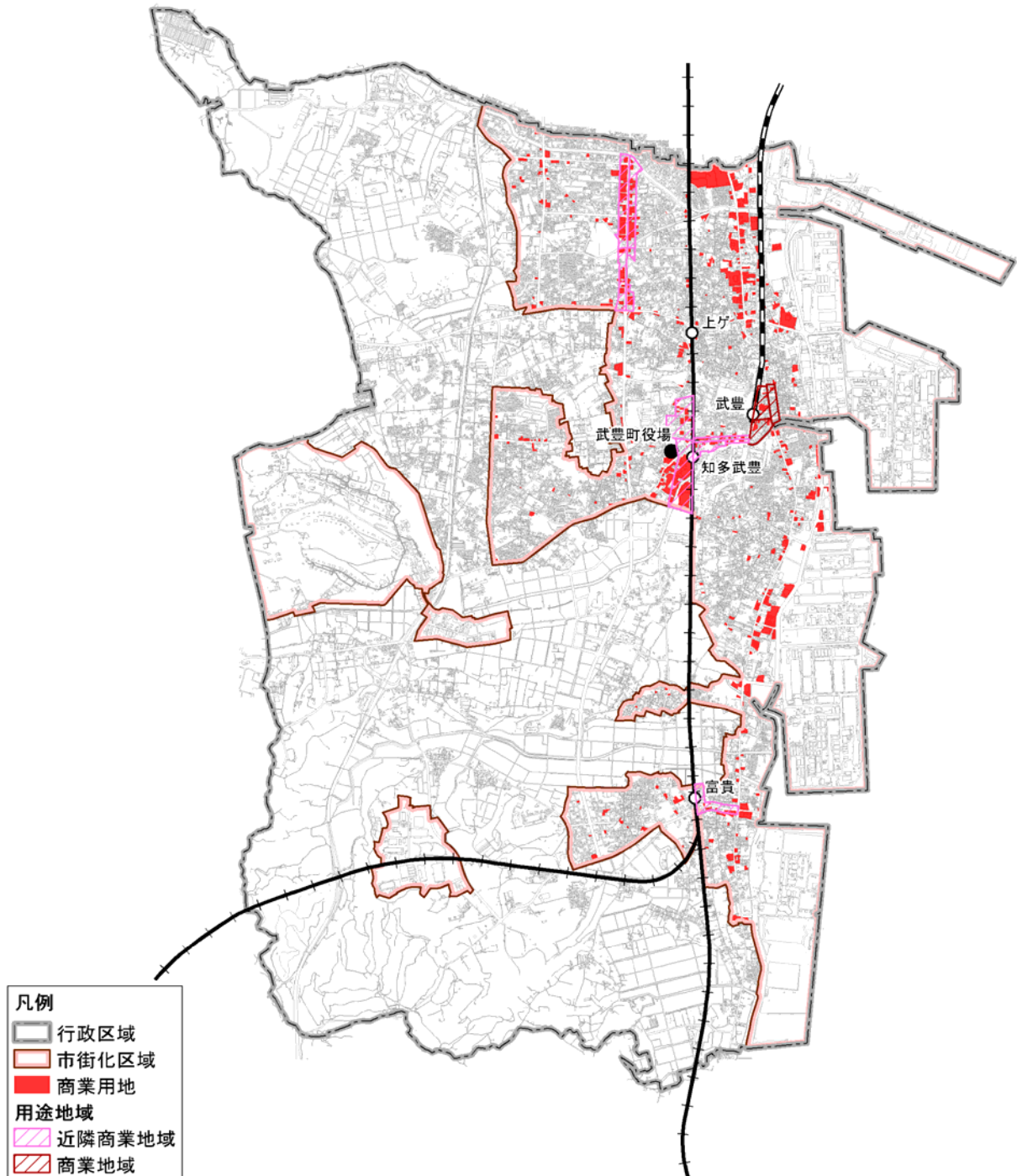


(資料: 国勢調査)

### (3) 土地利用

- 商業地域に指定された JR 武豊駅周辺や近隣商業地域に指定された名鉄富貴駅東側では住居系の土地利用が主体となっており、商業集積が進んでいません。
- 名鉄知多武豊駅西側と国道 247 号、県道半田環状線沿道に商業用地の集積がみられます。

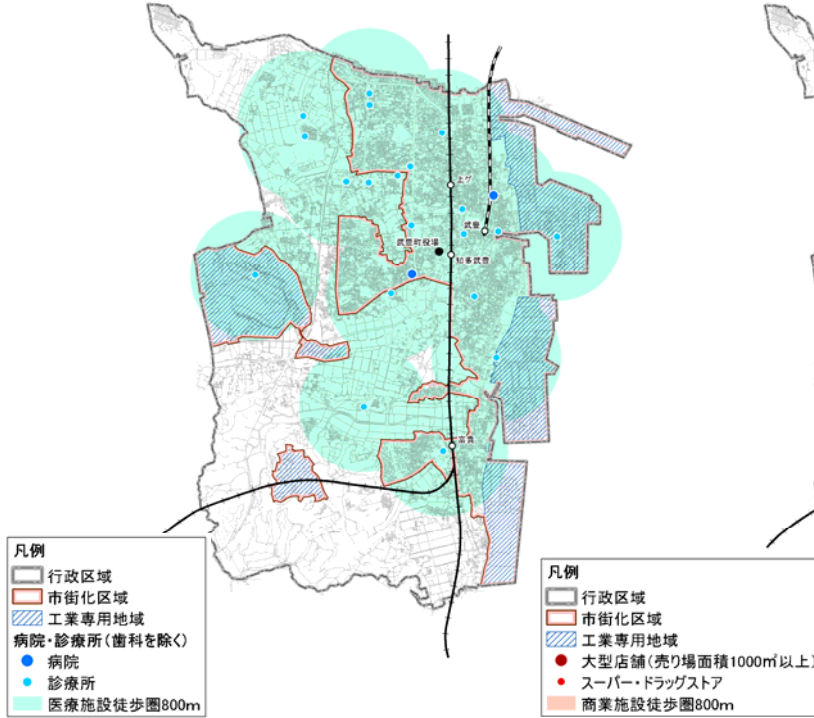
図表 商業系用途地域の指定状況と商業用地の分布 (H30)



(資料: 愛知県都市計画基礎調査)

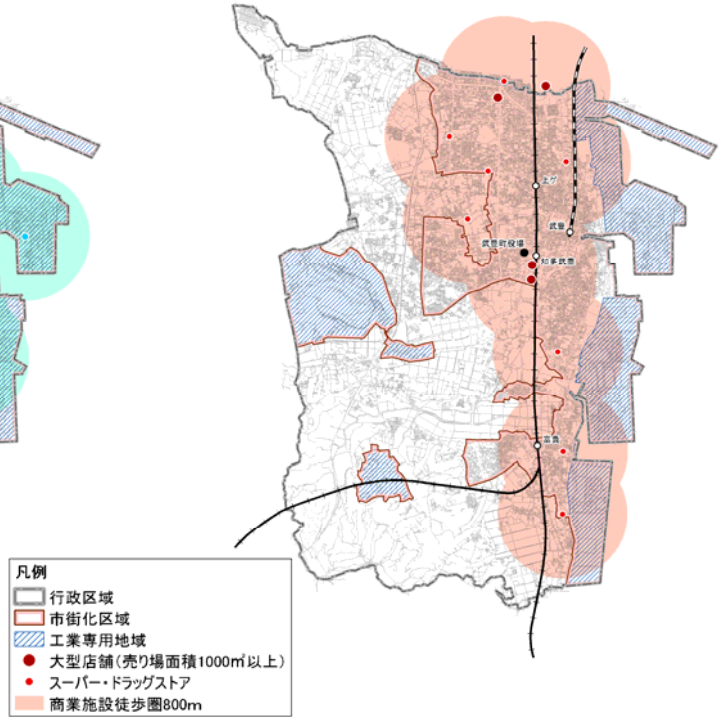
○医療、商業、福祉、子育てといった日常生活に密接に関連する都市機能は、市街地内に広く分布しています。

図表 医療施設の分布状況(R1)



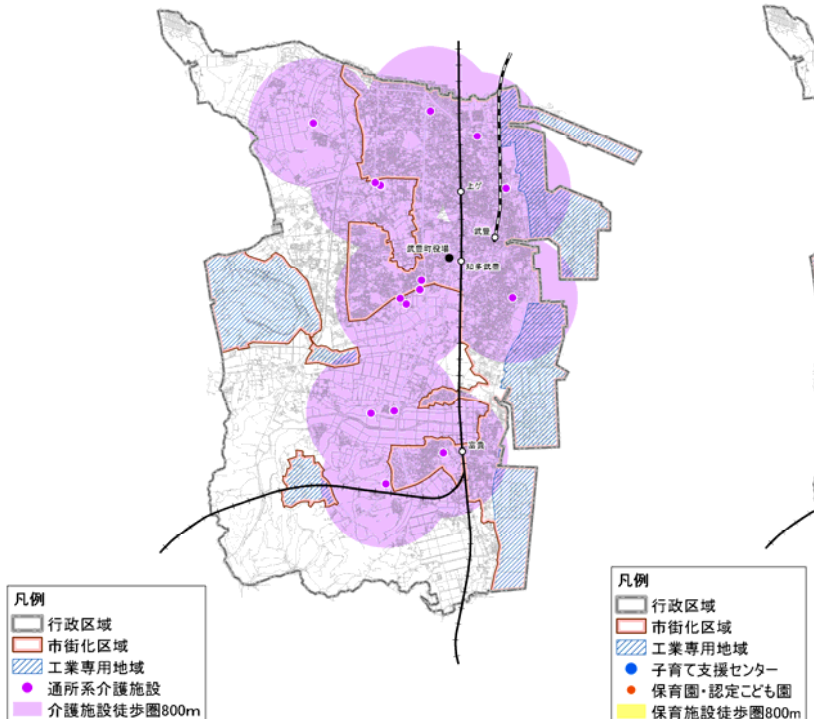
(資料:愛知県医療機関名簿)

図表 商業施設の分布状況(R1)



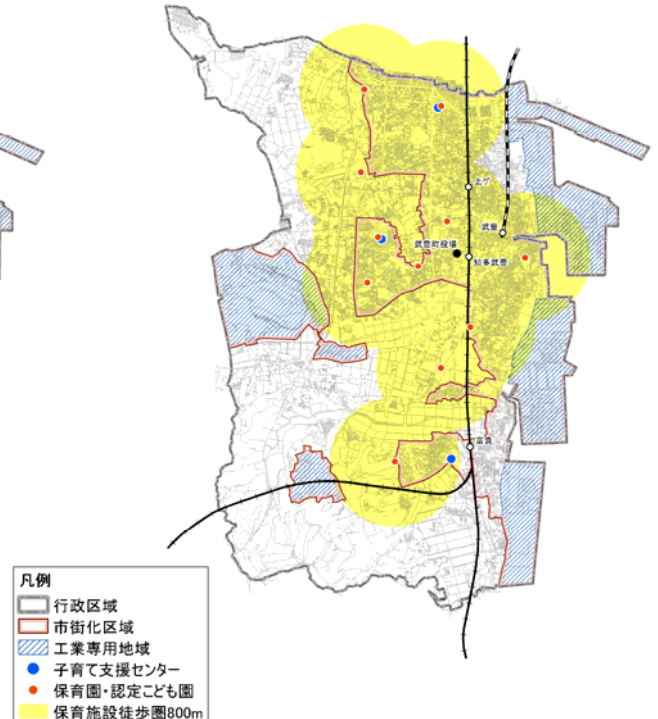
(資料:全国大型小売店総覧 2020)

図表 高齢者福祉施設の分布状況(R1)



(資料:厚生労働省介護サービス公開システム)

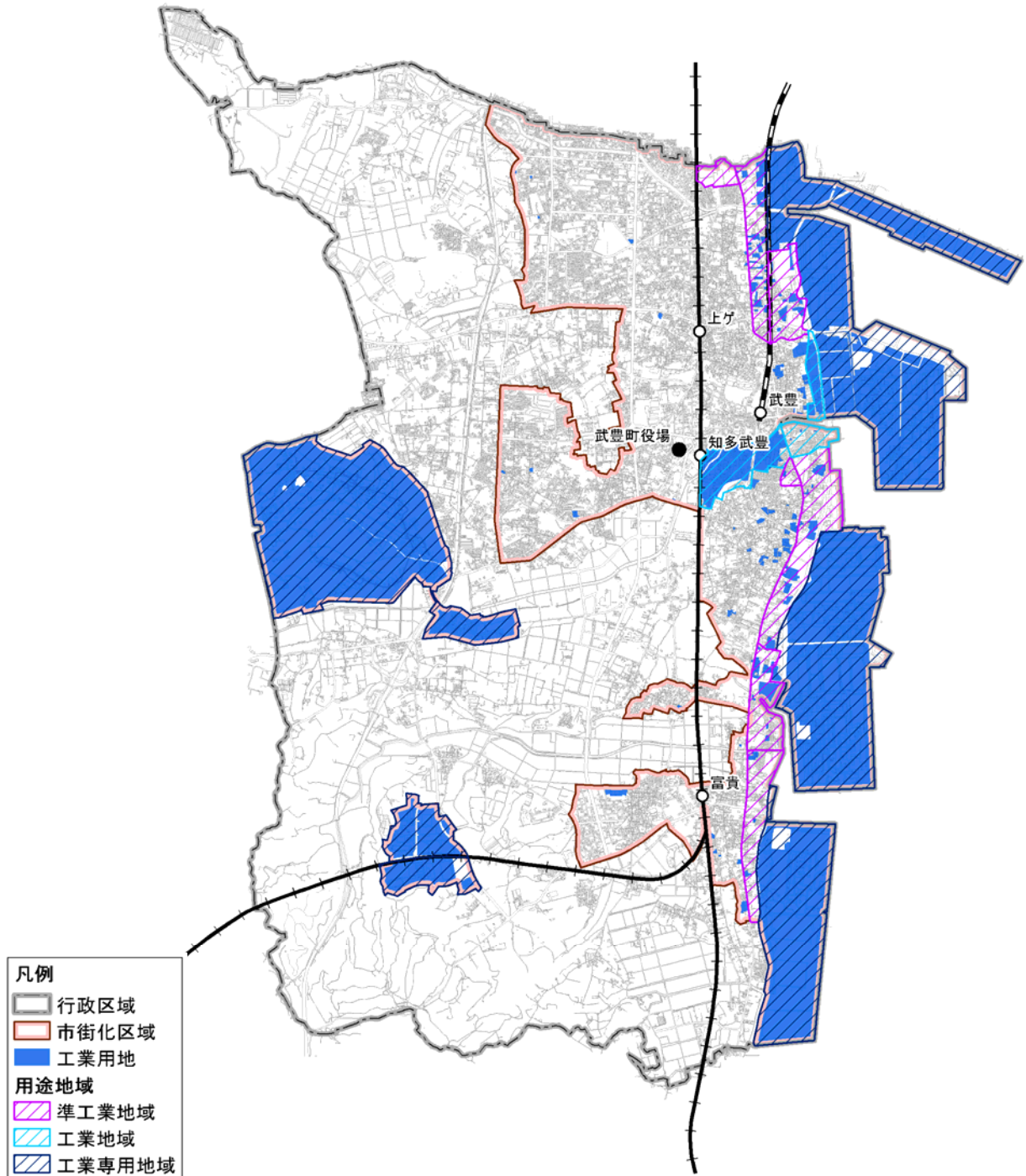
図表 子育て支援施設の分布状況(R1)



(資料:国土数値情報、武豊町資料)

○臨海部と内陸部の一部で市街化区域の約45%を占める工業用地が集積しています。

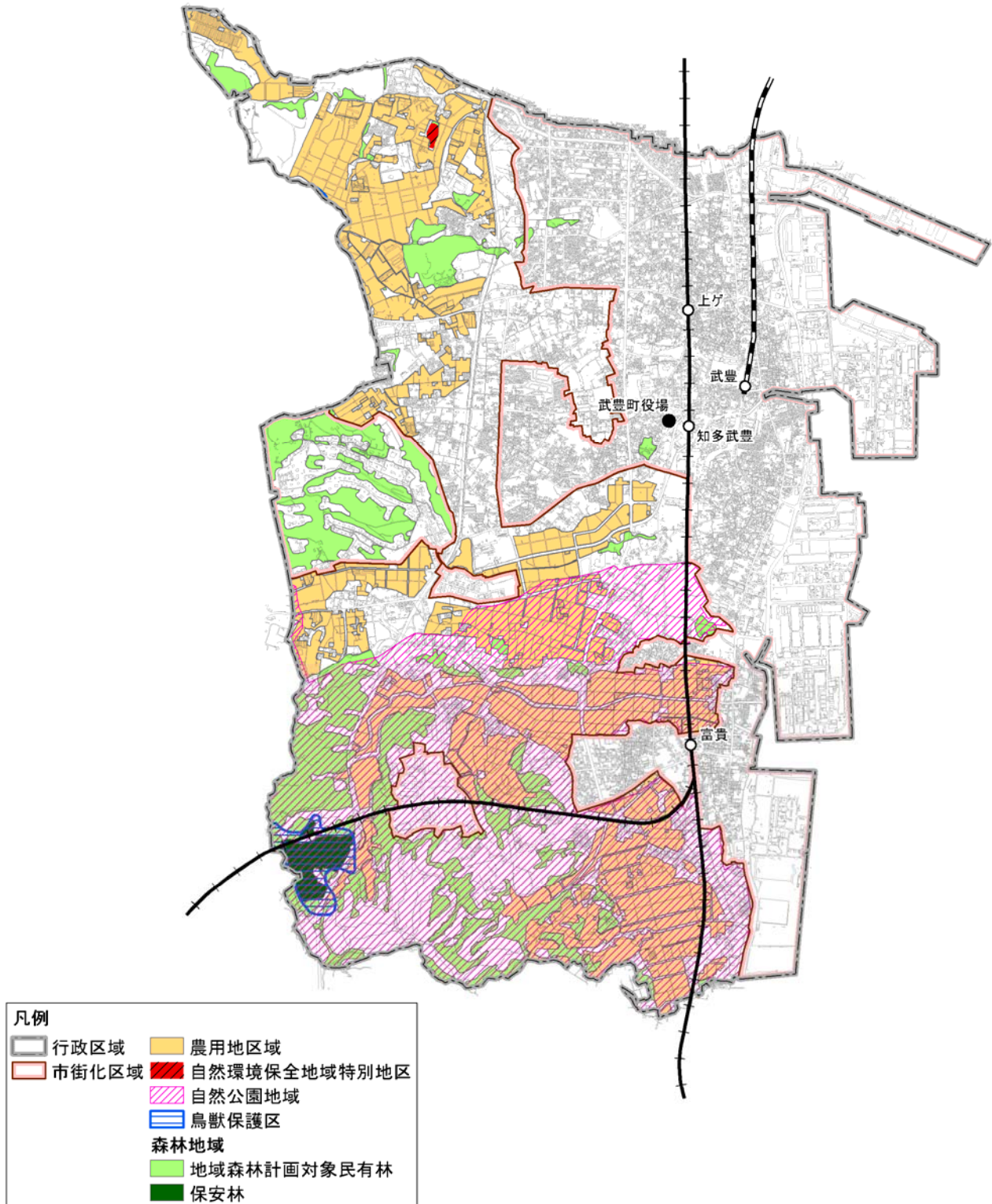
図表 工業系用途地域の指定状況と工業用地の分布(H30)



(資料:愛知県都市計画基礎調査)

- 町北西部のまとまった農地が農用地区域に指定された農地の保全、農業振興が図られています。
- 町南西部の丘陵地帯は自然公園や保安林が指定され、豊かな自然環境が保全されています。

図表 農用地区域等の法指定状況(H27)

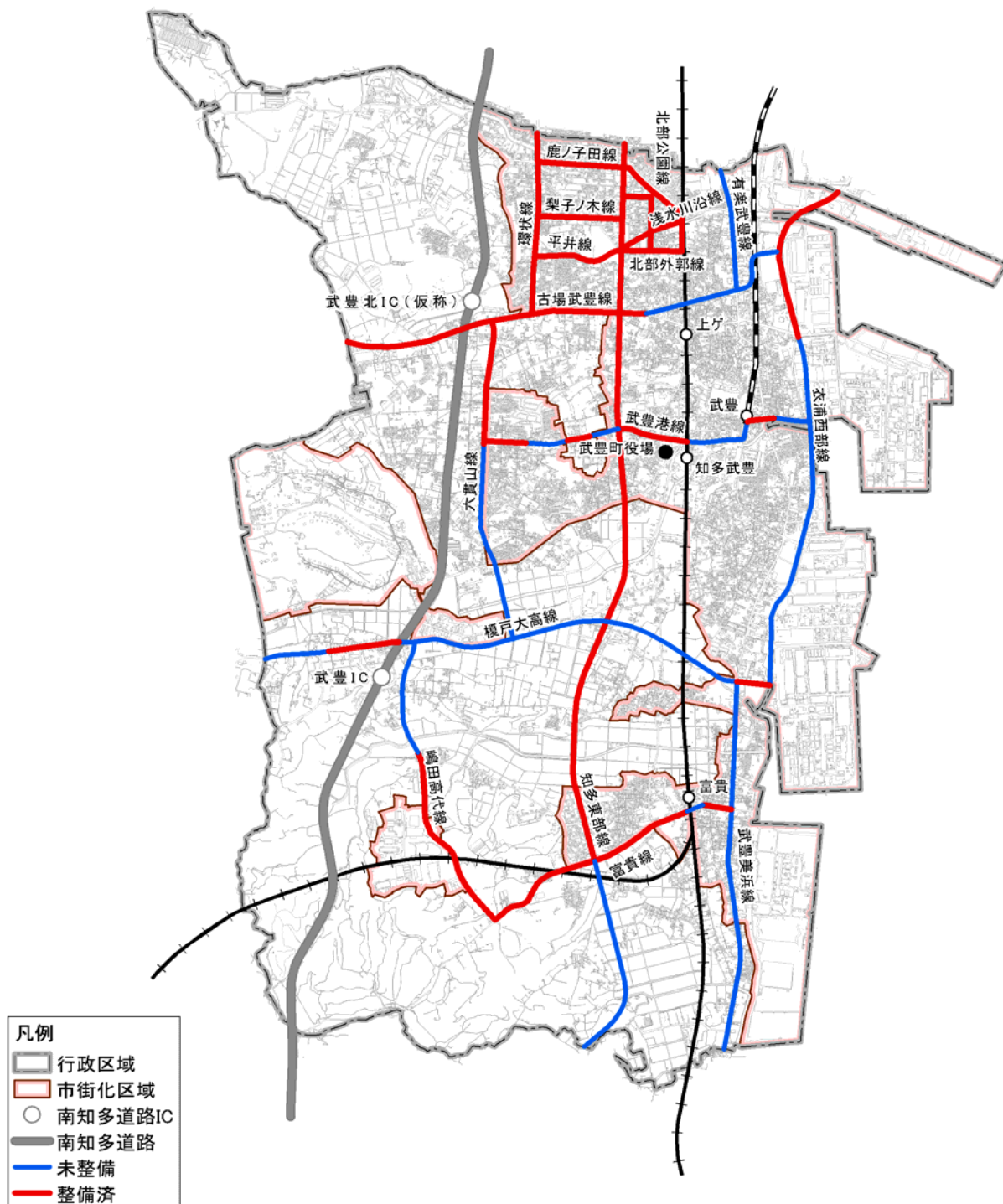


(資料:国土数値情報)

## (4) 都市施設

○都市計画道路の幹線道路全体の整備率は51.6%にとどまっています。  
 (改良済 14,390m ÷ 総延長 27,920m = 51.6%)

図表 都市計画道路整備状況(R2)

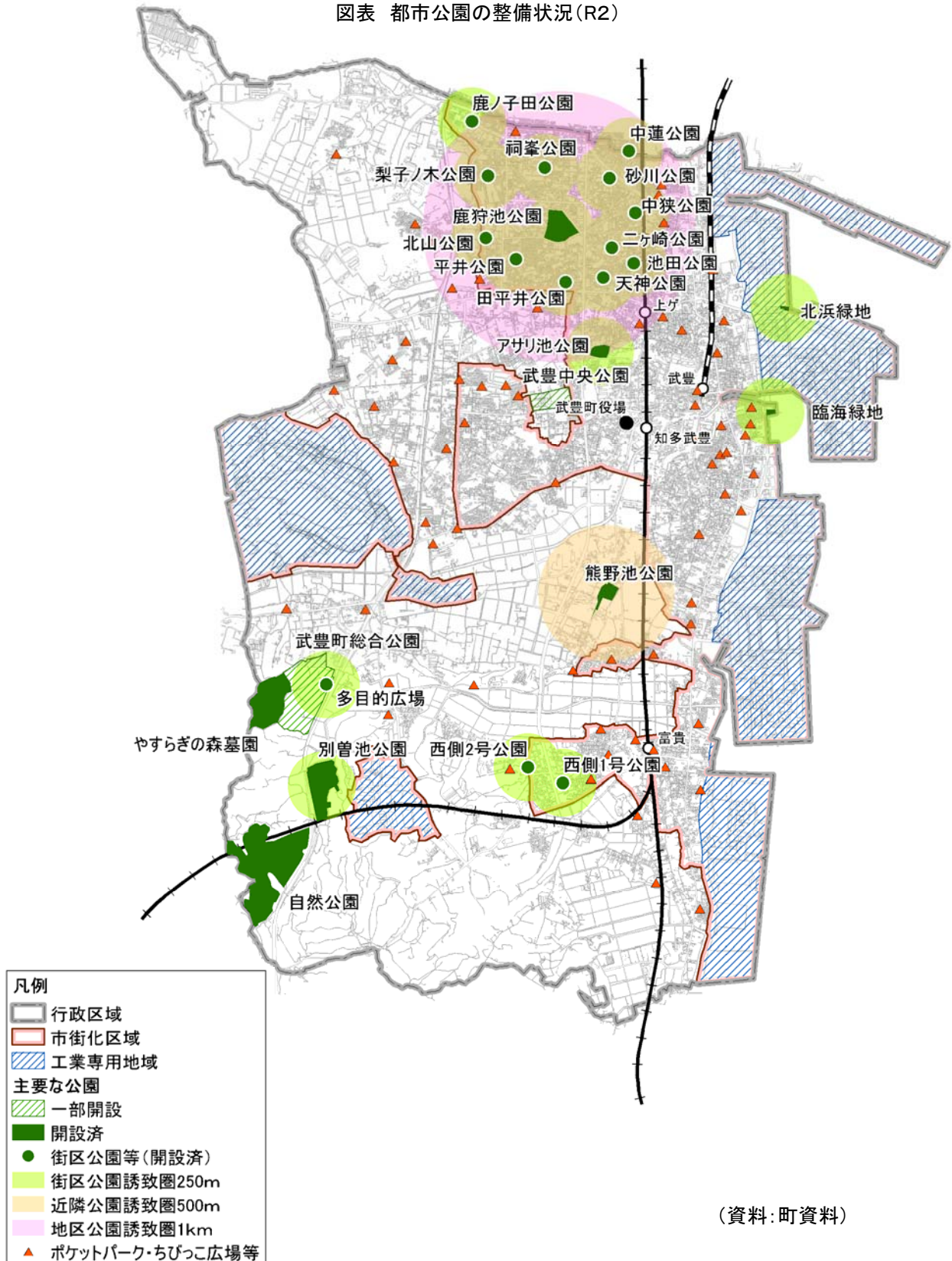


(資料:町資料)



- 街区公園など身近な公園は広く整備されていますが、名鉄知多武豊駅東側の市街化区域において身近な公園がない（誘致圏外）エリアがみられます。
- ポケットパーク・ちびっこ広場が広く分布しています。

図表 都市公園の整備状況(R2)

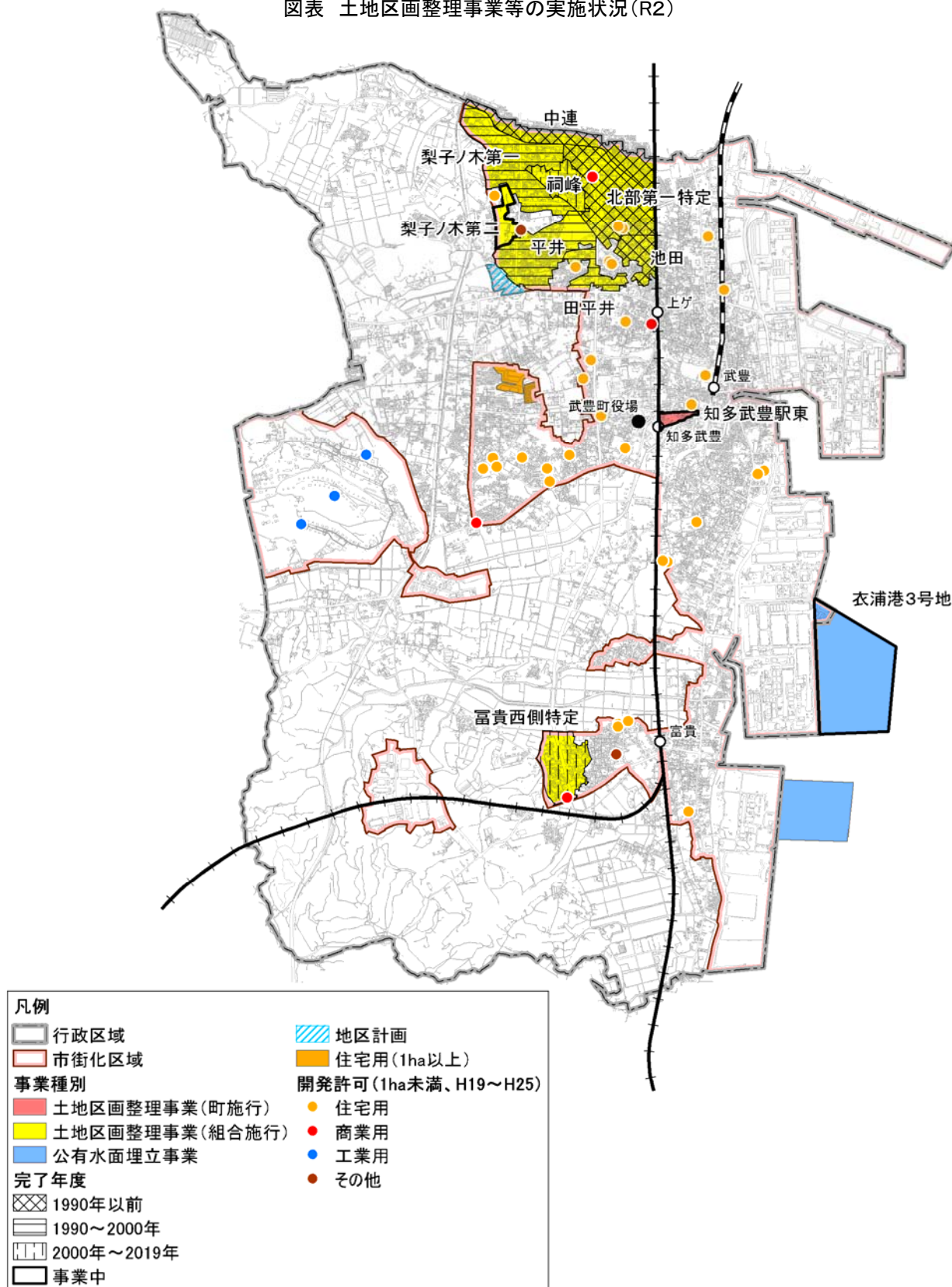


(資料:町資料)

## (5) 市街地整備

○JR 武豊駅及び名鉄知多武豊駅周辺や南部の市街地、市街化調整区域における集落地等では面的な市街地整備が実施されておらず、都市基盤整備が進んでいない状況です。

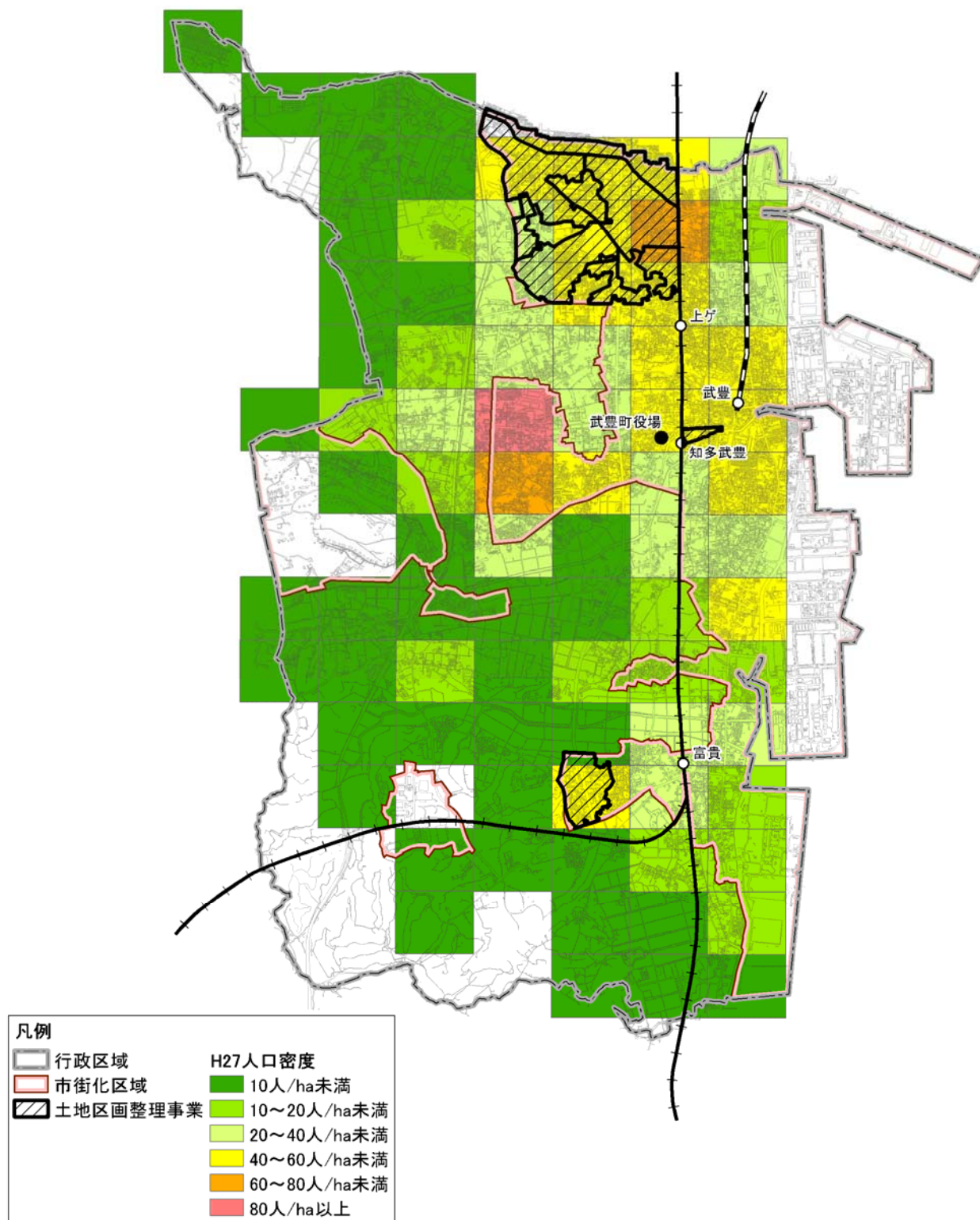
図表 土地区画整理事業等の実施状況(R2)



(資料:平成26年度愛知県都市計画基礎調査、町資料)

○JR 武豊駅及び名鉄知多武豊駅周辺や土地区画整理事業等により整備された市街化区域内の北部等で人口密度が高い傾向にあります。

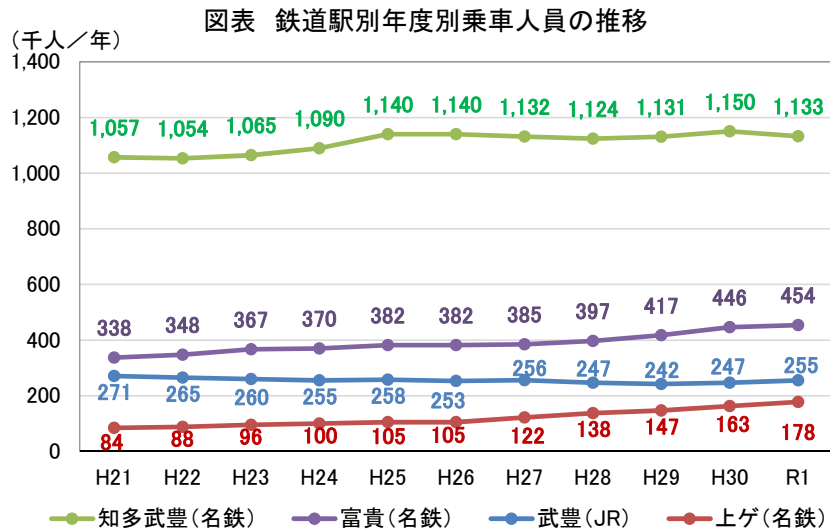
図表 土地区画整理事業等及び人口密度(H27)



(資料:国勢調査、愛知県都市計画基礎調査)

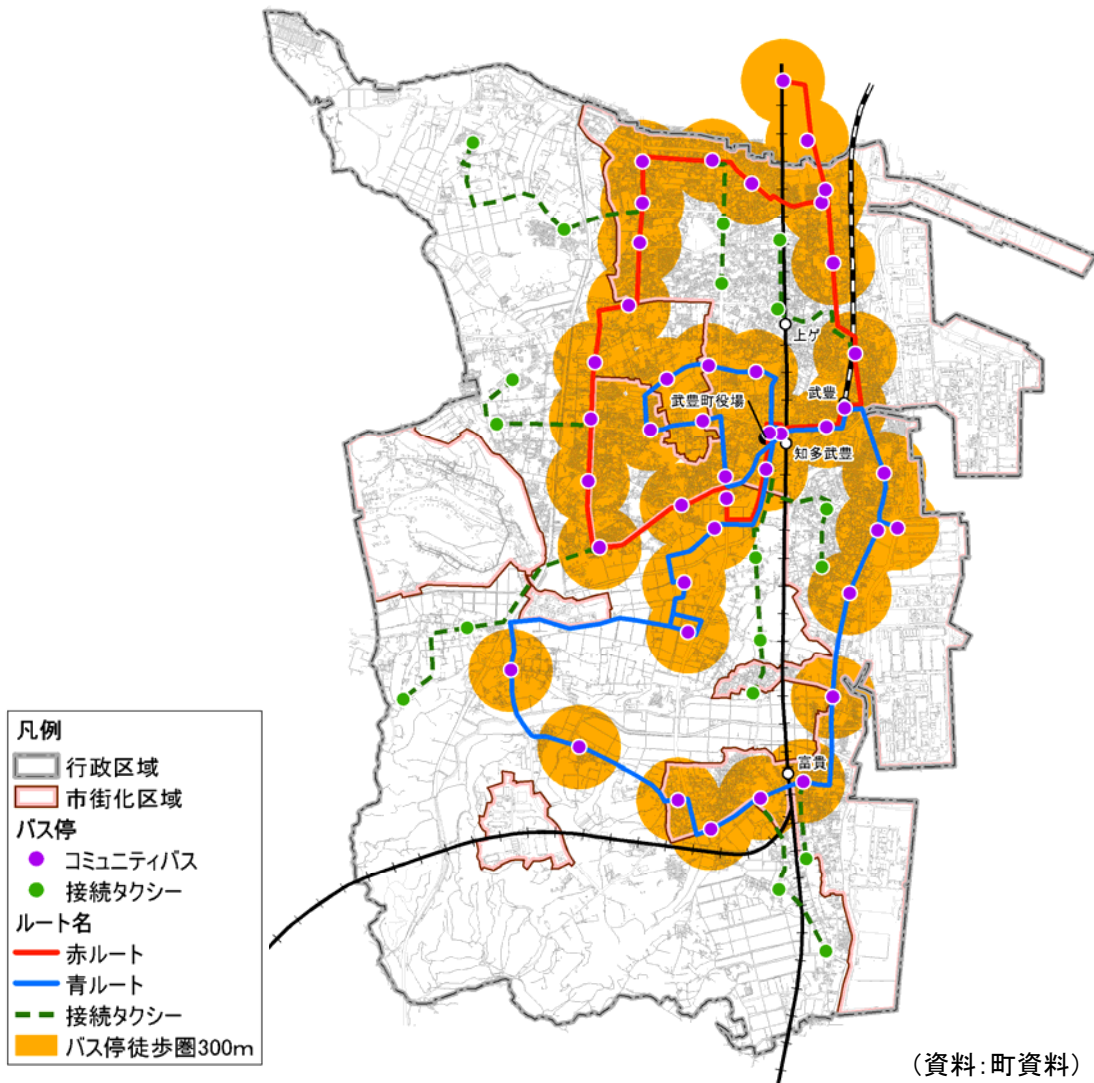
## (6) 交通

- 鉄道は、3路線（JR 武豊線、名鉄河和線、名鉄知多新線）が整備され、4駅が設置されています。
- コミュニティバスと接続タクシーが地域の公共交通を担っています。



(資料:愛知統計年鑑、町政概要)

図表 コミュニティバス路線網及び接続タクシー停留所位置図(R2)



(資料:町資料)

○武豊北インターチェンジ（仮称）が町北西部で整備中です。

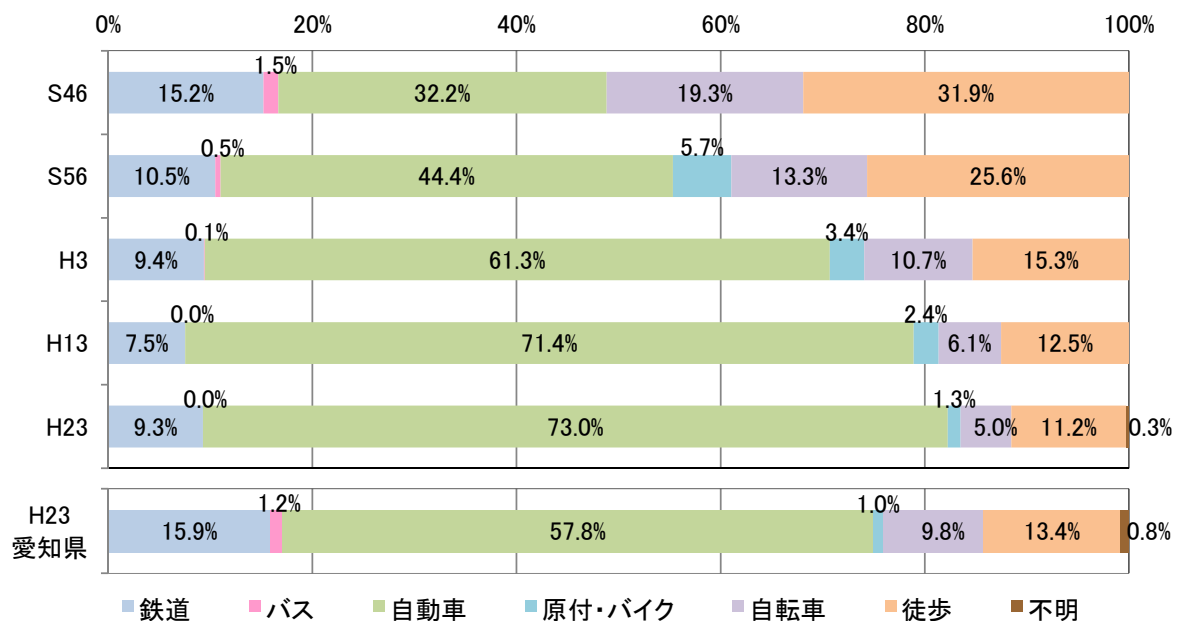
図表 武豊北 IC(仮称)完成予想図



(資料:町資料)

○代表交通手段としての鉄道の割合は、1971年（昭和46年）から2001年（平成13年）にかけて減少しましたが、2011年（平成23年）にはやや増加しています。

図表 手段別移動の内訳



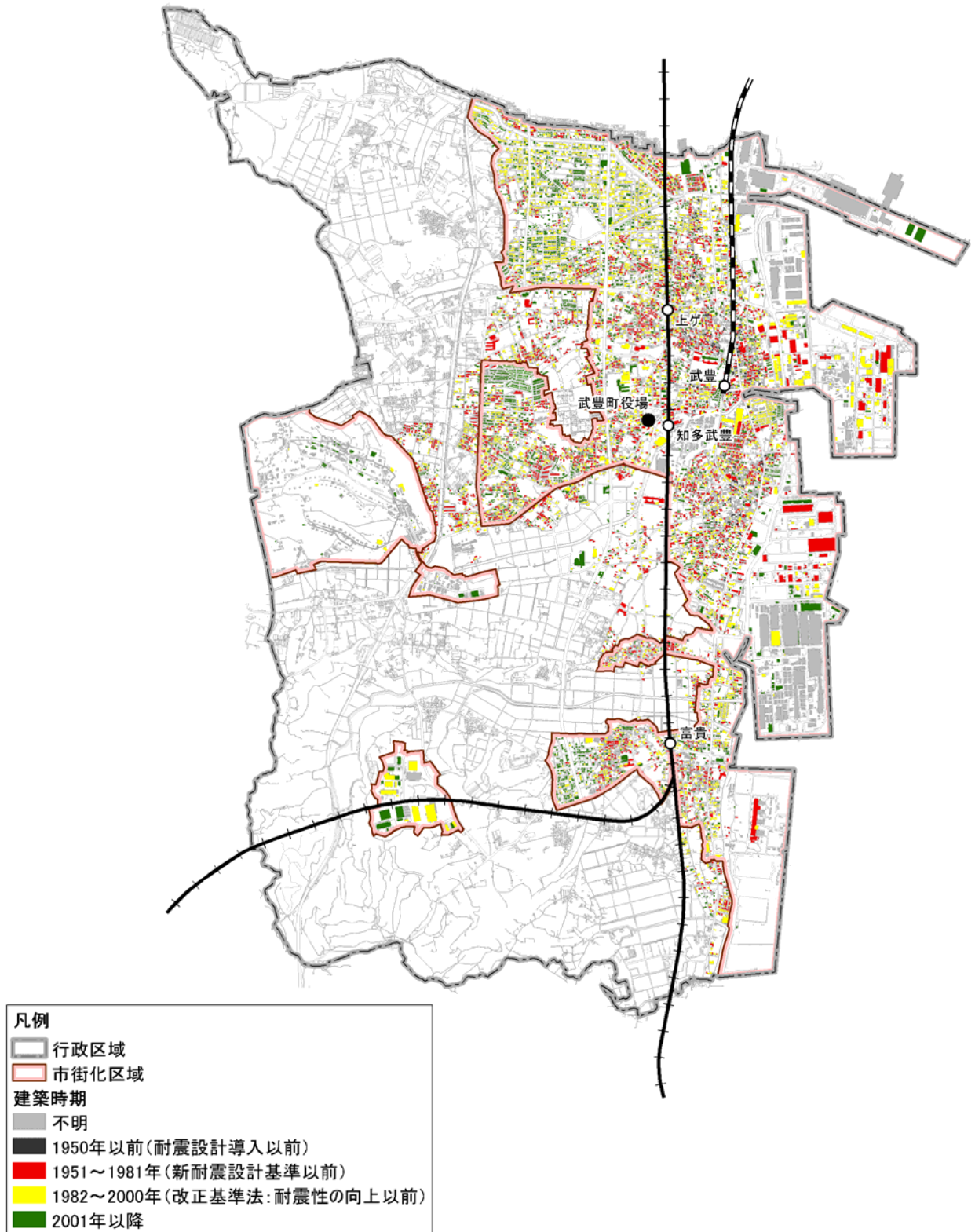
※S46は「原付・バイク」と「自転車」の区分ができないため、「二輪車」の数値を「自転車」に含む

(資料:中京都市圏パーソントリップ調査)

## (7) 防災

○JR 武豊駅周辺、名鉄上ヶ駅周辺等の既成市街地では新耐震基準以前に建築された家屋が多く残っています。

図表 建築年代別の建築物分布状況(H29)



(資料:愛知県都市計画基礎調査)

○町内には狭あい道路が多く存在しています。

図表 幅員別道路の実延長(R1)

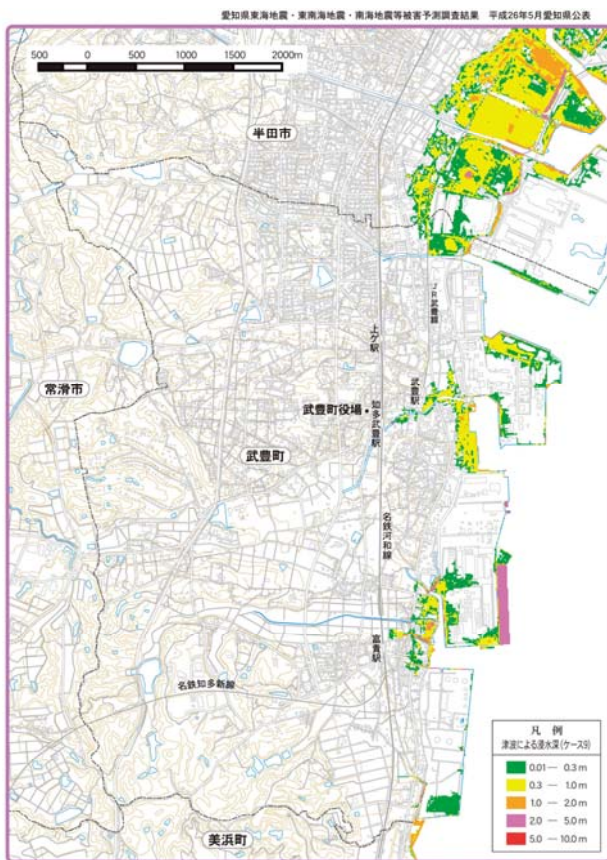
(単位:m)

区 分	町道
路 線 数	1,719
実 延 長	333,722
規格改良済	211,010
19.5m以上	30
13.0m以上	723
5.5m以上	55,083
5.5m未満	155,175
未改良	122,712
5.5m以上	242
3.5m以上	1,526
3.5m未満	120,944
うち自動車交通不能	21,070

(資料:知多半島の統計)

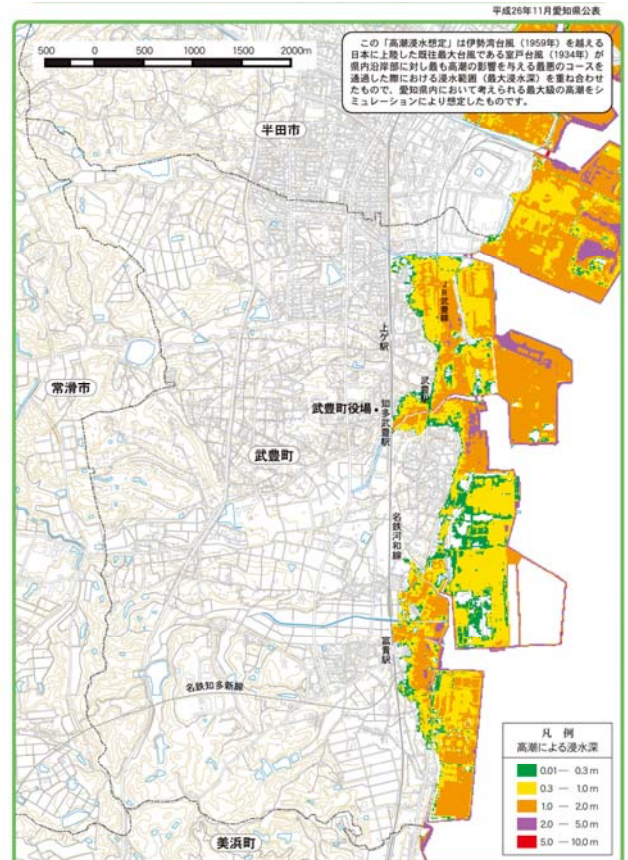
○衣浦港沿岸部は大規模な台風による浸水被害、南海トラフといった大地震時の津波被害や液状化被害を受ける可能性が高い区域と想定されています。

図表 津波浸水想定区域



(資料:「武豊町防災マップ」2014年度(H26年度))

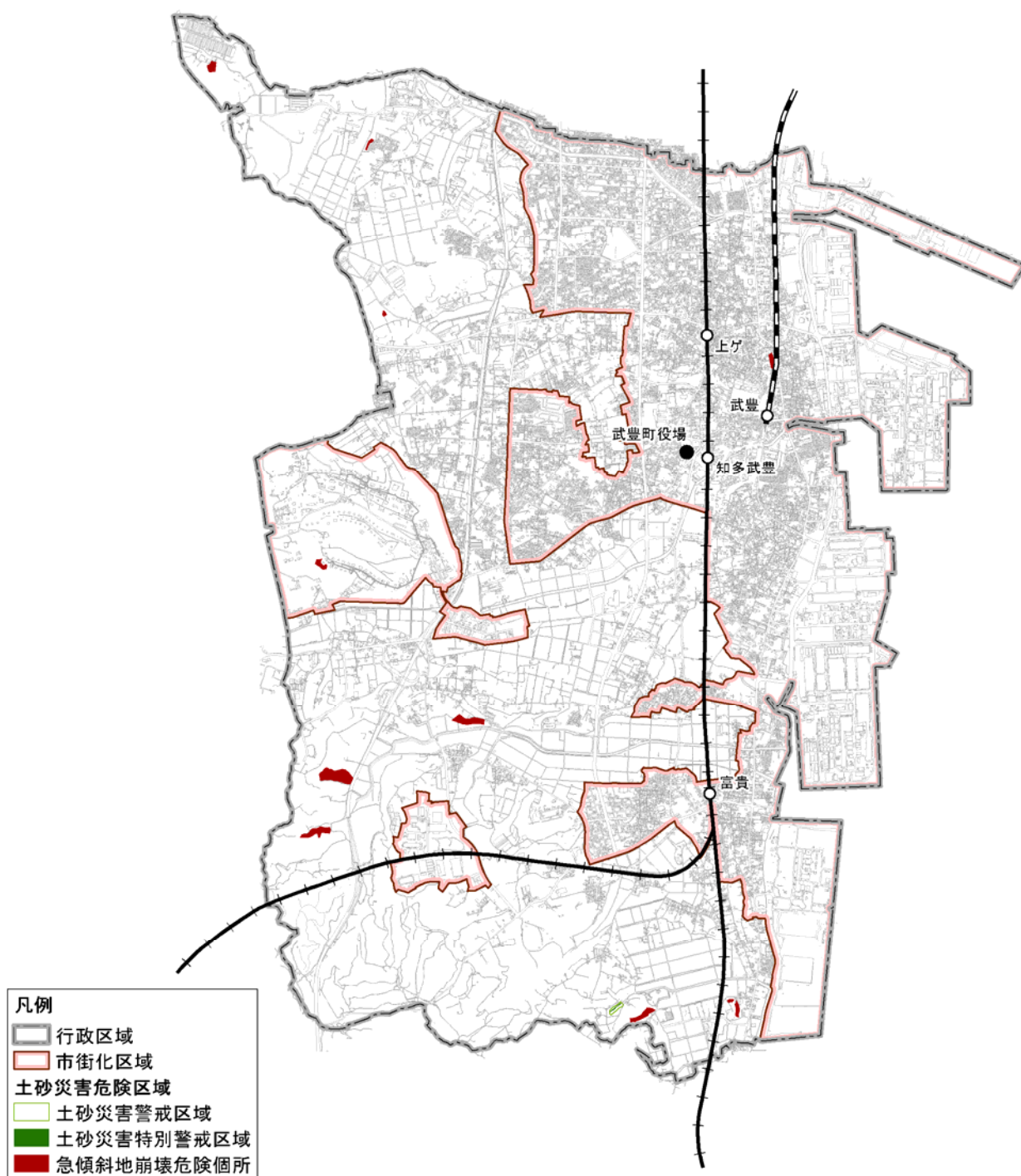
図表 高潮浸水想定区域



(資料:「武豊町防災マップ」2014年度(H26年度))

○西部の市街化調整区域の丘陵地の一部では、県指定の急傾斜地の崩壊のおそれがある土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険箇所がみられます。

図表 土砂災害危険箇所(R1)

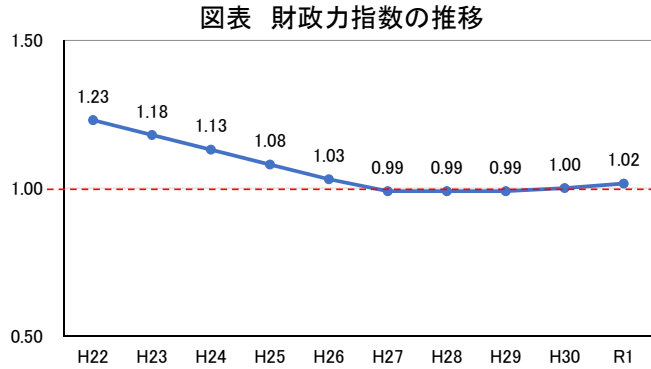


(資料: マップあいち、町資料)



## (8) 財政

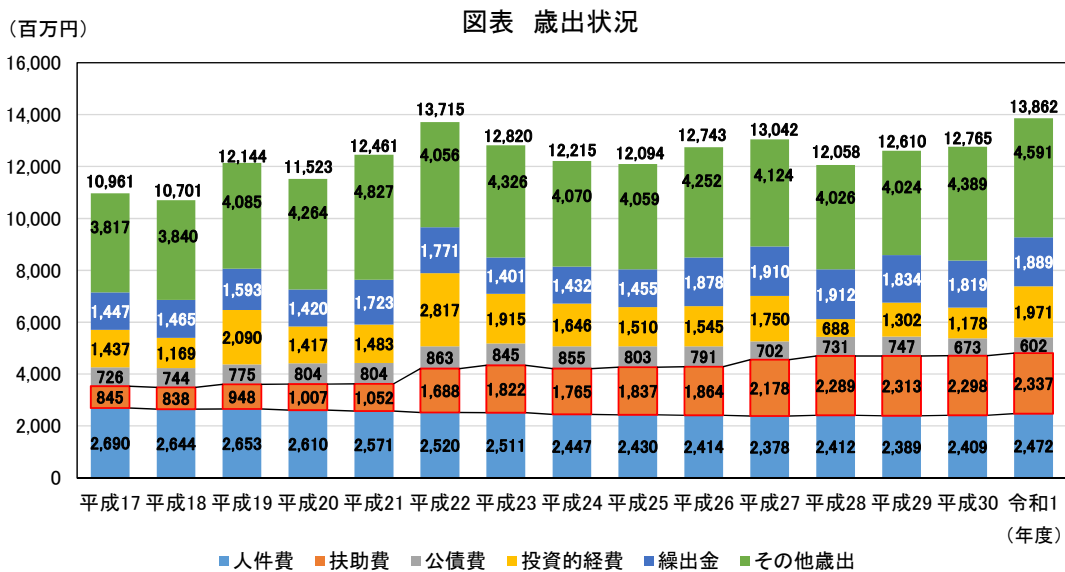
○財政力指数は過去には1.00を大きく上回っていたものの、近年では概ね1.00を維持しています。



※各年の財政力指数は直近3カ年の平均

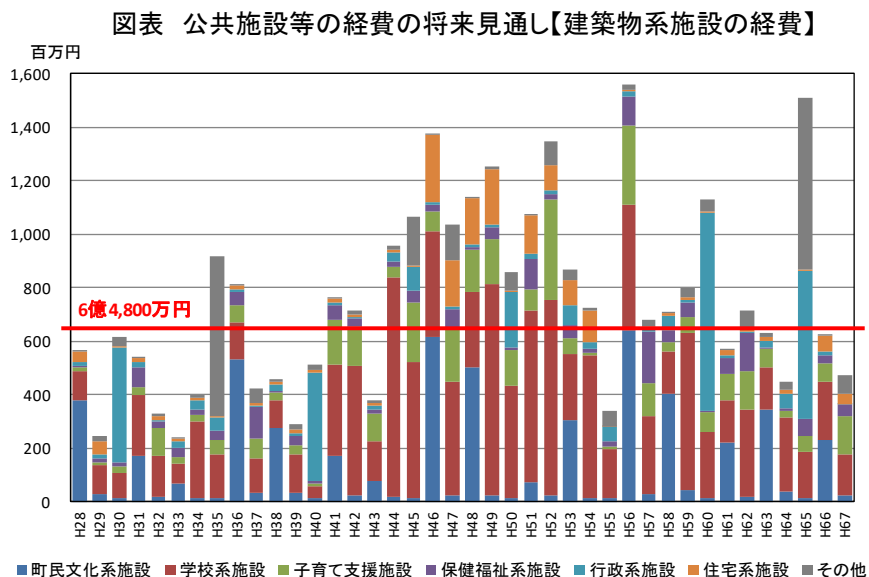
(資料:総務省 地方公共団体の主要財政力指標一覧)

○歳出の内訳は扶助費が増加しており、今後高齢者の増加に伴ってさらに増加することが見込まれます。



(資料:町政概要)

○2028年(令和10年)以降に公共施設の改修、更新のために多額の費用が必要と見込まれます。



(資料:「武豊町公共施設等総合管理計画」H29.3)

## 第3章 住民意向の把握

本章では、住民のまちづくりに関する意向を都市計画マスタープランに反映するため、2019年（令和元年）9月に実施した「武豊町都市計画マスタープランの策定に関するアンケート調査（以下、住民意向調査）」の結果を整理します。

### （1）調査の概要

武豊町在住の18歳以上の方を対象に、3,000人を無作為に抽出し、調査票を郵送により発送・回収しました。

図表 調査概要

項目	内容
調査対象	武豊町在住の18歳以上の方
配布数	3,000通
調査方法	調査対象者の中から無作為に抽出
調査時期	令和元年9月10日～令和元年9月25日
回収状況	配布数:3,000通 回収数:1,464通 回収率:48.8%

図表 回答者の属性

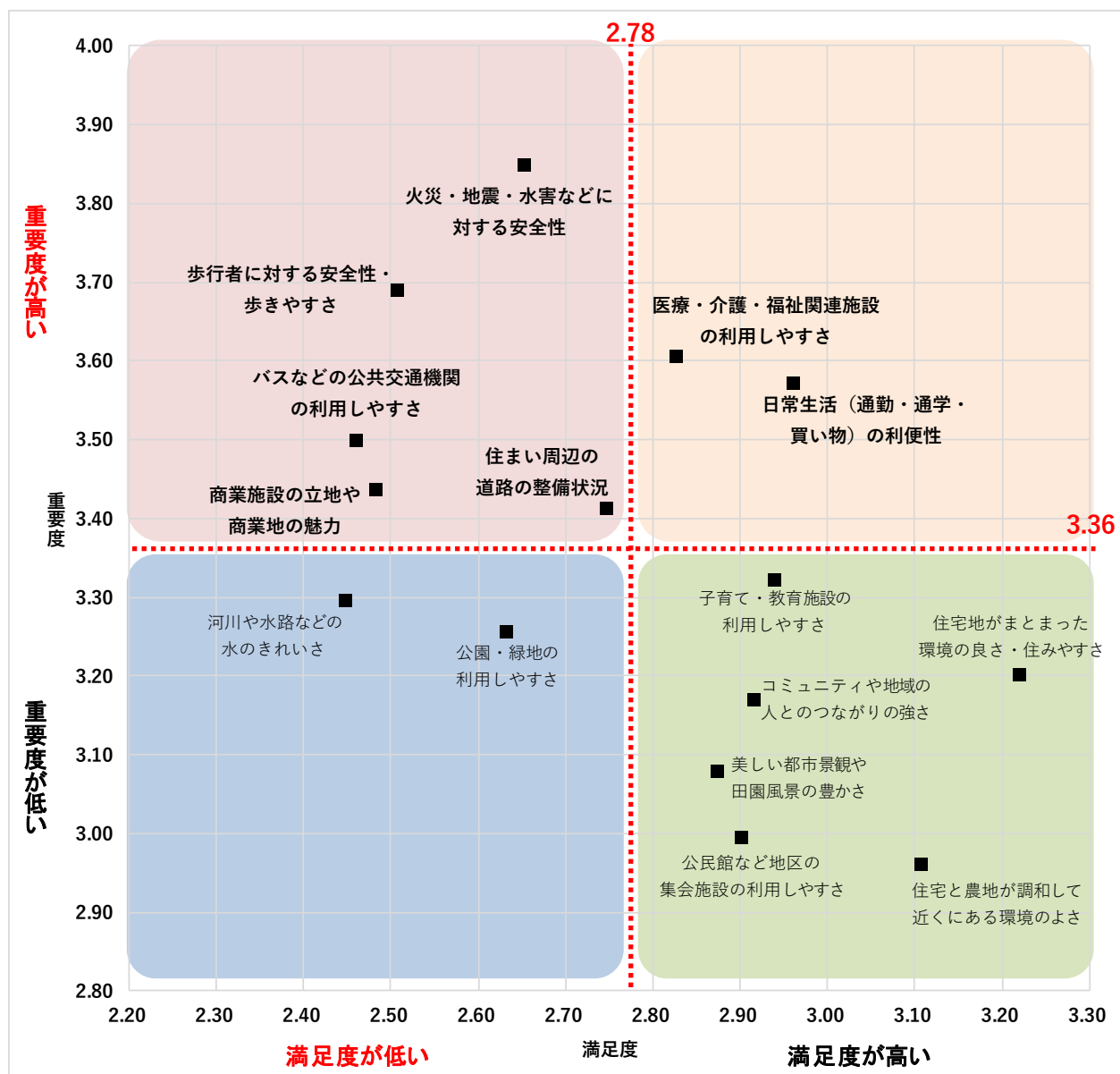
項目	内容
性別	「女性」が48.4%、「男性」が37.2%となっています。
年齢	「40歳代(19.7%)」が最も多く、次いで「50歳代(17.9%)」「30歳代(14.9%)」の順となっています。
世帯構成	「親と子からなる世帯(2世代家族)」が56.3%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」21.4%、「親・子・孫(3世代家族)」9.6%の順となっています。
居住年数	「30年以上」が31.0%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」22.7%、「20年以上30年未満」17.3%の順となっています。
住まい (小学校区)	「武豊小学校区(32.3%)」が最も多く、「緑丘小学校区(27.0%)」「衣浦小学校区(21.0%)」「富貴小学校区(16.1%)」の順となっています。

## (2) 生活環境に対する満足度・重要度

重要度が高く、満足度も高い項目として、「日常生活（通勤・通学・買い物）の利便性」「医療・介護・福祉関連施設の利用しやすさ」が挙げられます。

重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い項目として、「歩行者に対する安全性・歩きやすさ」、「火災・地震・水害などに対する安全性」、「バスなどの公共交通機関の利用しやすさ」が挙げられます。

図表 お住まいの地域の生活環境に関する満足度・重要度



※満足度の平均得点

$$= \{ \text{「満足」の回答数} \times (5 \text{点}) + \text{「まあ満足」の回答数} \times (4 \text{点}) + \text{「普通」の回答数} \times (3 \text{点}) + \text{「やや不満」の回答数} \times (2 \text{点}) + \text{「不満」の回答数} \times (1 \text{点}) \} / \text{回答数}$$

※重要度の平均得点

$$= \{ \text{「重要」の回答数} \times (5 \text{点}) + \text{「まあ重要」の回答数} \times (4 \text{点}) + \text{「普通」の回答数} \times (3 \text{点}) + \text{「あまり重要でない」の回答数} \times (2 \text{点}) + \text{「重要でない」の回答数} \times (1 \text{点}) \} / \text{回答数}$$

### (3) 目指すべき将来像

これからの本町はどのようなまちを目指していくと良いかたずねたところ、「防災・防犯の充実したまち」が53.8%と半数以上で最も多く、次いで「住み続けられる快適な居住環境が整ったまち」が48.4%となりました。

図表 目指すべき将来像（複数回答）

